

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「AYA世代がん患者の妊孕性温存に関する研究：地域モデル構築の統括およびマニュアル作成」

研究分担者 古井 辰郎 岐阜大学大学院医学系研究科・産科婦人科学分野 准教授

研究要旨： AYA 世代のがん患者の妊孕性に関する支援のための、啓発活動、人材育成、資料作成から、地域完結型がん・生殖医療連携の全国展開を目的とする。今年度は、実態調査およびニーズ調査の解析、がん・生殖医療連携会議やシンポジウムの開催や学会および論文発表を通じた啓発、人材育成、資料作成とネットワーク全国展開の準備を行った。

A．研究目的

地域完結型がん・生殖医療連携の全国展開(日本版Oncofertility Consortium)によるAYA世代のがん患者の妊孕性に関する支援とそのための人材育成を目的とする。

B．研究方法

大規模調査において、生殖小班が担当した質問項目を中心とした妊孕性に関する結果や全国の関係者間での議論を通し、構築済みの地域医療連携の効果の検証を行い、医療連携構築における課題や問題点を明らかにすると同時に、各地域での資料等の共有システムも構築し、全国展開に繋げる。その他、関連学会や諸団体とも協力した啓発活動、人材育成なども行なった。

具体的には、以下に列挙する。

・JSFP-がん・生殖医療連携会議・Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016 準備会議(7月30-31日) JSFP=日本がん・生殖医療学会

・「厚生労働省科学研究(がん対策研究)推進事業：Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016-地域完結医療連携モデルの全国展開およびがん・生殖医療における心理支援体制の構築」

での議論を実施した(12月11日)。

・さらに、学会発表、シンポジウム開催協力、HP作成などを通じた資料による啓発・人材育成によりがん・生殖医療連携の全国展開達成を目指す。

C．研究結果

大規模調査の生殖小班担当部分を中心とした結果解析として、AYA世代がん患者に対する生殖機能に関する情報提供の重要性とその不足という現状が明らかとなった。また、診療科、施設間における意識や情報提供の実施率の差も大きいことが明らかとなった。地域においてはネットワーク構築地域において、施設間連携が行われつつある状況が確認できた。また、ART登録施設、生殖医療専門医の偏在も医療連携の役割分担を考慮する上で重要な課題であることが明らかとなった。

がん診療の現場での意識向上、円滑な医療連携促進を目指し、がん治療学会「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成WG」に参加し、2018年4月ガイドライン発行に向けて準備中である。

JSFP-がん・生殖医療連携会議・Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016 準備会議(7月30-31日東京都)、JSFP-Oncofertility Consortium JAPAN meeting 2016(12月11日横浜市)を主催した。前者では、17都道府県から50名のがん・生殖医療連携構築および構築準備中の地域およびJSFP関係者を中心に、医療連携の現状、課題、共有可能資料の共有などを議論し、後者でその結果を全国のAYAがん診療に従事するヘルスケアプロバイダー約200名を対象に発表した。全国10地域で医療連携が発足しており、8地域で準備中であることが明らかとなった。稼働中の地域においてもネットワークの稼働実態や運営方法などは様々であることも明らかとなった。ここでの議論では、地域特性に合わせた医療連携のあり方の検討、ナビゲータ制度、フォローアップ体制、長期保存システムなどシステムに関する問題点、資料の充実化・ITを活用した共有、臨床研究の必要性などが提案された。

その他、各種シンポジウム、公開講座、論文作成等での発表を通じた啓発活動により、啓発活動、人材育成を行なった。(詳細は業績参照)

D．考察

大阪、京都、宮城、栃木、千葉、鹿児島など新たな地域でもがん・生殖医療連携の立ち上げや準備着手が報告されており、本生殖小班の上記活動およびJSFP、日本生殖心理学会、がん治療学会、日本IVF学会などと協力した啓発活動による地域におけるがん・生殖医療連携構築の機運の高まりの結果と考えられる。

一方で大規模調査および本班主催の各種会議での議論の結果、抽出された多くの課題の解決を図ることで、がん・生殖医療ネットワークの全国展開に加速がつくものと思われた。

具体的には、ナビゲータ制度、情報提供拠点施設、

各種資料整備、マニュアル等の資料・資材の整備は喫緊のテーマと思われた。

E. 結論

本科学研究によって、医療連携構築の萌芽などAYA世代がん患者の妊孕性に関する支援が端緒についた。今後は、啓発活動および人材育成、資料の充実化の継続とともに、ナビゲータ制度の具体化、秀出された諸問題から適切ながん・生殖医療提供のあり方、適正な地域での医療連携構築を検討するための情報提供拠点施設などの検討が重要と考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

古井辰郎：がん治療と妊孕性温存～がん・生殖医療について～、岐阜県医師会医学雑誌 29：3-10, 2016

古井辰郎：がん治療による卵巣機能低下と不妊、国内のがん・生殖医療の現状、日本 IVF 学会雑誌 19(2):2-8, 2016

古井辰郎、牧野弘、竹中基記、菊野享子、森重健一郎：AYA 世代癌患者の性腺機能障害、妊孕性低下に関する諸問題と医療連携の重要性、日本小児血液がん学会雑誌 53(3) 212-218, 2016

2. 学会発表

古井辰郎：妊孕性温存の方法と適応・がん生殖医療における生殖医療の実際がん生殖医療専門心理士養成講座（東京）H28.5.15

古井辰郎：小児およびAYA 世代がん患者のがん治療と生殖機能～がん・生殖医療連携としての岐阜モデルの現状～、熊本大学医学部附属病院生殖医療・がん連携センターキックオフシンポジウム(熊本)H28.6.29

古井辰郎：若年がん患者さんの将来の妊娠・出産(妊孕性温存)について、ジャパンキャンサーフォーラム(東京)H28.8.6-7

古井辰郎：地域におけるがん・生殖医療連携について、栃木がん・生殖医療研究会(栃木)H28.8.25

古井辰郎：生殖医療からみたがん・生殖医療の現状と問題点、第1回日本がんサポーターケア学会学術集会(東京)H28.9.3-4

古井辰郎：若年がん患者の早発卵巣不全(POI)対策と医療連携、Fukuoka Hematology Seminar(福岡)H28.9.6

古井辰郎：小児のがん治療と生殖機能および医療連携の意義と現状、第16回中部小児がんトータルケア研究会(岐阜)H28.10.1

古井辰郎：がん・生殖医療連携としての岐阜モデルの現状と課題、第3回静岡がん生殖医療ネットワーク(静岡)H28.11.12

古井辰郎：若年がん患者の早発卵巣不全(POI)対策と岐阜県での医療連携の取り組み」、第1回埼玉県がん・生殖医療ネットワーク研究会(さいたま)H29.2.18

古井辰郎：がん・生殖医療における地域ネットワークと他施設連携、若年乳がん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー(横浜)H29.1.29

古井辰郎：がん患者の妊孕性温存と胚培養士の役割～岐阜県がん・生殖医療ネットワークの取組から～、生殖医療技術者のためのリカレントセミナー岡山・福岡・名古屋(名古屋)H29.2.19

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし